

シラ・ ナノテクノロジーズがコーチュ、T. ROWE PRICE社ファンドから600億円の資金調達
工場新設で製造を大幅に拡大し電気自動車展開へ

1/26/2021

カリフォルニア州アラメダ市

次世代バッテリー素材を手がけるスタートアップのシラ・ ナノテクノロジーズ (Sila Nanotechnologies) は5億9千万ドル (約610億円) のシリーズF資金調達を発表した。調達後のポストマネーバリュエーションは33億ドルになる。今回の追加投資はシラ・ ナノ技術のバッテリーを搭載したデバイスが初めて消費者へ届けられるタイミングと重なる。同社は今後さらに生産を拡大し、スマートフォンや自動車市場の需要に応える予定だ。このラウンドのリードインベスターはコーチュ・ マネジメント (Coatue) で、他には T. Rowe Price Associates社がアドバイザーを務めるファンド等が参加している。8VC、ベッセマー・ ベンチャーパートナーズ (Bessemer Venture Partners)、カナダ年金制度投資委員会 (Canada Pension Plan Investment Board)、そしてサッター・ ヒル・ ベンチャーズ社(Sutter Hill Ventures)も追加投資をしている。

シラ・ ナノはBMWやダイムラー、日本のTDKグループ会社であるATL (アンペレックス・ テクノロジー・ リミテッド) と提携している。今回の資金調達は2024年に稼働予定の工場の新設計画に役立てる。米国内に建築予定の新工場では年間100ギガワット時のアノード材を生産し、今後高まるスマートフォンや自動車需要に対応する体勢を整える。2021年内に100人を追加採用し、2025年までにEV (電気自動車) 市場への本格的な参入を目指す。

「新たなバッテリー技術を開発するのに8年間で3万5千回もの反復試験を繰り返してきたが、まだまだこれからだ。」シラ・ ナノの共同創業者でCEOのジーン・ ベルディーチェフスキー (Gene Berdichevsky) は語る。「新しい技術が社会に見える形でインパクトを与えるにはスケールアップしないといけない。それには何十億単位の追加資金がいる。2025年までにEVや家電製品での展開を果たすには新しい工場への投資が必要不可欠だ。」

世界中でEV (電気自動車) や再生可能エネルギーへのシフトが進むなか、バッテリー生産は2010年から年間20ギガワット時ずつ成長している。2030年までには年間2000ギガワット時、2050年には年間30,000ギガワット時になると予想されている。シラ・ ナノ技術のアノード材は、現在ある工場設備や製造工程を変えずに導入可能だ。既存のリチウムイオンバッテリーに使われる炭素素材をシラ・ ナノのアノード材に置き換えるだけで、飛躍的にバッテリー効率を向上させる。

コーチュ・ マネジメントのジャイミン・ ワンワラ (Jaimin Rangwalla) は「シラ・ ナノのバッテリー技術は実に革命的で、広範囲での展開が可能だと確信している。」とコメントしている。「今あるインフラを活かしつつ、画期的で新しい電池技術を目指すジーンの素晴らしい

チームとの提携に期待している。」

シラ・ナノテクノロジーズについて

シラ・ナノテクノロジーズは次世代バッテリー素材を手掛けるスタートアップ。シラ・ナノの新たなバッテリー技術は電池の寿命を飛躍的に延し、EV（電気自動車）、小型家電製品、その他再生可能エネルギー製品での展開が期待される。先駆けとなったシリコン素材アノード材は既存のリチウムイオンバッテリーの性能を20%高め、今後最大50%向上する可能性を持つ。シリコンバレーのエンジニアとジョージア工業大学教授によって2011年に創立されたシラ・ナノは、カリフォルニア州アラメダ市に拠点を置く。投資家には8VC、日本のTDKグループ会社であるATL（アンプレックス・テクノロジー・リミテッド）、ベッセマー・ベンチャーパートナーズ（Bessemmer Venture Partners）、カナダ年金制度投資委員会（Canada Pension Plan Investment Board）、Chengwei Capital、コーチュ・マネジメント（Coatue）、ダイムラー、In-Q-Tel、Matrix Partners、Next47、サムスングループ、サッター・ヒル・ベンチャーズ社（Sutter Hill Ventures）、T. Rowe Price Associates社がアドバイザーを務めるファンドがいる。詳しくはwww.silanano.com